

大牟田市の生涯学習課とその職員の方々である。とりわけその課の前任者である西田氏には、大牟田市と講師等の派遣依頼をするための有明高専との諸手続き、この会の開催場所の確保など煩雑な業務を誠実にこなして頂き、会の円滑な運営に大きく寄与して頂いた。高齢化の進む地方の一都市で、行政とその地域住民とがタッグを組み、生涯学習の取り組みの実践をこのような形で残せたのは望外の幸せである。

次に、この書にするための、会員の全発表原稿のワープロ化と出版用の原版作りを一人で担って頂いた「道真梅の会」の会長でもあられる須藤修一氏のご支援である。須藤氏は有明高専の電気工学科の元教授でもあられ、その専門分野と関わりの深い電子機器に精通されていることから、パソコンで出版原稿を作成する労苦を進んで引き受けて下さったのである。もしここに須藤氏の御尽力がなければ、この会の二年間の取り組みをこのような形で公にすることは出来なかったと思う。多大の心身両面での犠牲を伴うご支援に心より感謝申し上げます。

次に、この書を出版するに当たり、本校の有明高専 立居場光生学校長より「平成二十年度 校長裁量経費」として多額の出版費用を支援して頂いたことである。これは、本校有明高専の地域貢献への取り組みの成果が、支援に値すると判断してもらえたものと考えている。厚く御礼申し上げます。

そしてこの書を出版するにあたり、出版費用その他の諸々の煩雑な事を快く引き受けて下さり、有明高専や大牟田地域の発展、とりわけ文化的なことに寄与できる事だからとご支援頂いた、福岡学術出版社の宮原社長に厚くお礼申し上げます。

この書が道真の最高傑作と言われる作品の注釈を施すことを目標としながら、監修者自身の学識不足、考察、調査不足のための外れのものとなっているのではないかと恐れるが、菅原道真の作品研究の一助となれることを、